

## 郷土の英傑 鮭延秀綱物語 ②



### 二、鮭延城を築く

仙北(秋田県南)の領主、小野寺氏より鮭延の地を賜った佐々木貞綱(秀綱の父)は、天文四(一五三五)年、この地に城を築くとともに一族を近郷に配置して館を構えさせ領地を治めた。

岩鼻、庭月、平岡、野崎、及位、差首鍋などの館跡が残っており、当時、一族の強い結束がうかがえるとともに安定した国づくりをすすめる後の鮭延氏の基礎が構築された時期でもあろう。貞綱には長男氏孝、次男秀綱、三男綱知、外に子女もいたようである。また 貞綱には妹がおり、小野寺輝道に嫁ぎ義道(秀綱の従兄)を出産するなど、主家小野寺氏との結びつきが強かった。

貞綱は天文五(一五三六)年、城内野田村(真室川中央公民館付近)に鮭延山総国寺(後の正源寺)を建立。近江を離れて約六十年、安住の地を得て祖先の菩提を弔うゆとりが生まれたのもこの頃ではなかっただろう。当時、悪疫が流行し庶民が数多く死亡するのを貞綱は憂い、本国(滋賀県)伝来の薬師如来を奉じて城内を巡行したところ、城内に堂宇を建立して祀られた



銅造如来像

のが今に伝わる「銅造如来倚像(国指定重要文化財)」である。

新町三蔵院についても、貞綱移封とともにこれに従い移り、この地に社殿を造営し鬼門の守護神とされたといわれている。

天文四年から永禄初めにかけて、貞綱の時代である約三十年は、この地にしっかり根を張り充実した領国支配がなされた時であろうと推察される。

しかし戦国の世の常、まもなく庄内武藤氏による鮭延攻めが始まろうとしていた。次回は、「庄内武藤氏の鮭延攻め。秀綱誕生」です。

(真室川町歴史研究会)

### 表紙の紹介

### 端午の節句

6月6日(月)、安楽城保育所(児童41人)で、端午の節句が行われました。男の子達は「さんきちやま」へ宝物を探しに出发、女の子達は、お部屋を掃除したり、男の子のお着替えを準備したりと大忙し。勇気がいっぱい詰まったお土産を持ち帰った男の子達に女の子達は「お帰りなさい。お食事にしますか。それとも風呂にしますか。」と尋ねました。お風呂を希望した男の子達と一緒に、強くたくましく、元氣と勇気がわいてくる菖蒲とよもぎの足湯を楽しみました。お昼ご飯は、こいのぼりのように飾り付けられていて、子ども達は何度もお代わりをしていました。

